



# 監視カメラシステム

レンタル、クラウド運用、オンプレミス-ニーズに応じたご提案が可能です

# 監視カメラシステム

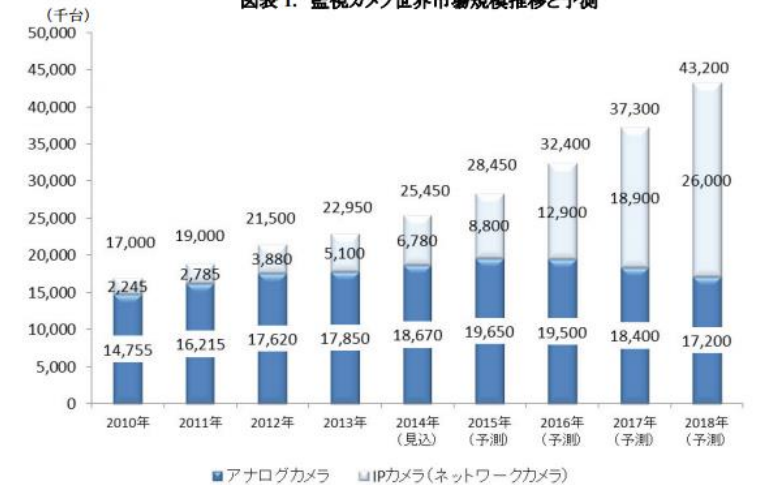
- ・市場は年々拡大しており、今後も拡大していくことが予測されている
- ・セキュリティ向上の意識が高くなっており、監視カメラシステムはその役割を担う重要な機器
- ・アナログカメラからネットワークカメラへの移行がすすんでおり

2017年には逆転の見込み

- ・監視カメラは、監視・防犯だけでなく
- マーケティング用途など多機能化も進んでいる

2015年8月7日  
 株式会社 矢野経済研究所

図表 1. 監視カメラ世界市場規模推移と予測



(単位: 千台)

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年 (見込)	2015年 (予測)	2016年 (予測)	2017年 (予測)	2018年 (予測)
アナログカメラ	14,755	16,215	17,620	17,850	18,670	19,650	19,500	18,400	17,200
IPカメラ(ネットワークカメラ)	2,245	2,785	3,880	5,100	6,780	8,800	12,900	18,900	26,000
監視カメラ世界市場規模(合計)	17,000	19,000	21,500	22,950	25,450	28,450	32,400	37,300	43,200

矢野経済研究所推計

注1. メーカー出荷台数ベース  
 注2. (見込)は見込値、(予測)は予測値

# 監視カメラシステムの主な役割

---

- ・防犯（設置することによる犯罪抑止効果）
- ・事件発生時の早期解決
- ・トラブル発生時の確認用データ
- ・セキュリティにかかるコストの低減（警備員人件費などの削減）
- ・従業員などの行動規範の向上
- ・マーケティング情報の収集
- ・情報発信のツール
- ・分析のための情報収集ツール

# 監視カメラシステムの種類・運用形式

---

## カメラ種別

- ・アナログカメラ
- ・ネットワークカメラ

## 運用形態

- ・クラウドサーバーで運用するシステム
- ・ローカルだけでなくネットワーク経由で外部からもアクセス可能なシステム
- ・ローカルで完結するシステム

# システムの中心となる監視カメラ

---

監視カメラは、大きく2つに分類される

## ・ネットワークカメラ

ネットワークカメラの特長は、その名のとおりネットワークケーブルを接続し、離れた場所からでもアクセスできることである。解像度はHDが標準で、レコーダーだけでなく、通常のパソコンなどで運用することが可能。今後、アナログカメラにとってかわることは確実とみられている。すでに社内LAN環境が整っていればその回線を使用することも可能。スイッチングハブの活用でケーブル敷設工事をシンプル化できる。カメラ追加時などの拡張性も高い。

## ・アナログカメラ

アナログカメラは、同軸ケーブルで接続し、一般的にはレコーダーと組み合わせて使用する。ネットワークカメラと比較すると解像度が低いモデルが多く、遠隔からのアクセス性はよくない。レコーダーと1対1の接続が必要なためケーブル敷設工事が煩雑となる。

# 運用システムの種類

---

## ・クラウドサーバーで運用するシステム

クラウドサーバーで録画データを保管したり、カメラ管理を行うもので、故障によるデータの既存やシステムダウンのリスクが少なく、初期費用も抑えることが可能。どこからでもカメラや録画データにアクセスが可能。当社が推奨している運用システム。

## ・ローカルだけでなくネットワーク経由で外部からもアクセス可能なシステム

ローカルで運用するネットワークカメラを使ったシステムで、ローカルネットワーク内のパソコンやレコーダーに録画データを保管し、外部からもカメラや録画データにアクセスできるよう設定。

## ・ローカルで完結するシステム

ネットワークカメラで構築する一般的な監視カメラシステム。外部からのアクセスは不要という前提でローカルネットワーク内で完結するシステム。

# カメラの機能をカスタマイズ

---

- ・人や車のカウント機能
- ・通過が多いラインを分かりやすく表示するヒートマップ機能
- ・動く物体を検知した場合の通報
- ・定期的な静止画像保管
- ・不特定多数へのライブ配信機能
- ・映像内の異常状態を検知した場合の通報

# クラウドとオンプレミスの比較

	クラウド	オンプレミス
初期費用	小	大
運用費用	クラウドサーバー費が必要	見た目上の支出は少な目
データ毀損リスク	小	ややリスクあり
機器メンテナンス	ほぼなし	定期的な交換作業などが必要
拡張性	高い	低い
1カ所大規模案件	あまり適さない	適する
多拠点案件	適する	あまり適さない
サポート性	遠隔からも可能	現地出張のケースが多い
省スペース性	優れる	劣る
システムダウン	リスク小	クラウドと比較するとリスク大
工期	短い	長い



# 監視カメラシステム導入のポイント

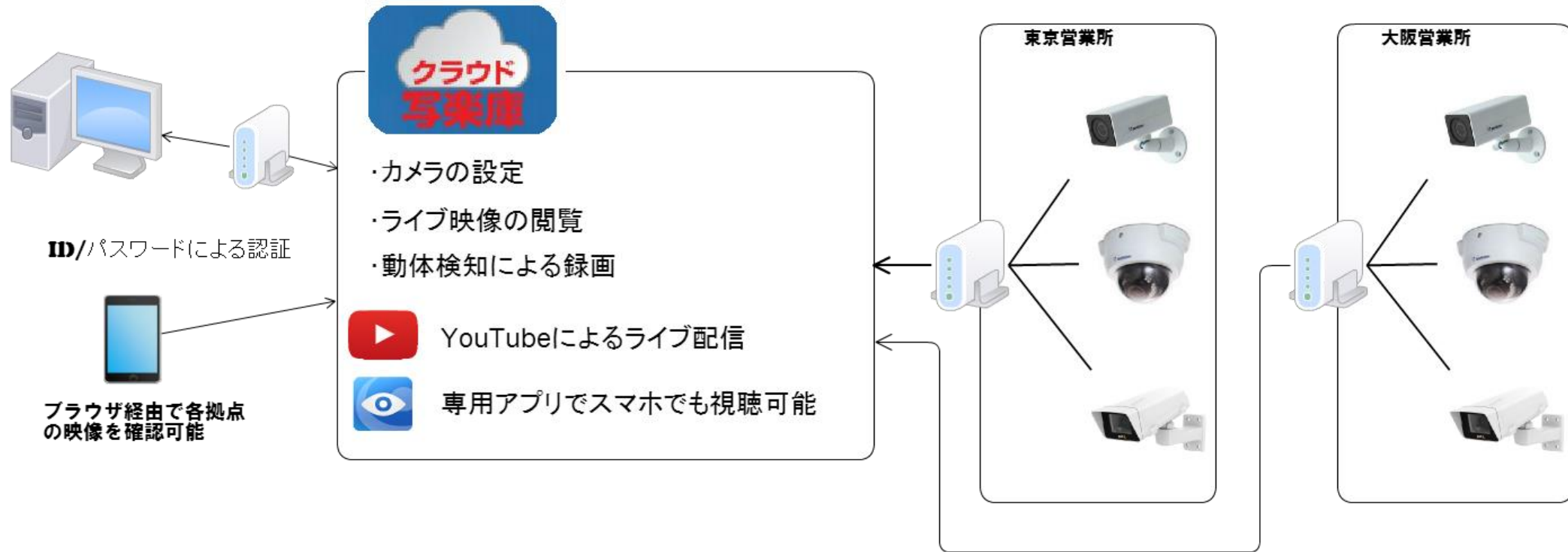
---

1. 目的の明確化、導入しない場合のリスクやデメリットを整理し損害金額の想定などを行う
2. システム要件の検討-必要な機能を整理
3. カメラ選定と設置場所及びコストの検討-過剰スペックにならないよう機能を厳選
4. 現場調査、見積-取付工法、工事期間、必要部材などを検討し見積額を提示。
5. 事前構築-現場に入る前に全ての設定を完了し、動作確認
6. 設置工事-スケジュールに基づき取付工事と設定、画角調整などを行う

当社では、防犯設備士の資格をもつ担当者が上記の1～6まで一貫してご相談にのり、担当させていただきます。

# クラウド運用型監視カメラシステム

クラウド監視カメラサービス システム概念図



# クラウド運用型のメリット

---

1. 初期投資費用が少なくすむ
2. サーバー機やレコーダーが不要なためハードウェアの定期交換や運用管理が不要
3. 機器故障によるデータ毀損やシステムダウンのリスクが極めて小さい
4. 現場にはレコーダーやPCなどが不要なため、省スペースでの運用が可能
5. どこからでもアクセスして管理が可能のため、低コストで迅速なサポートを受けられる
6. カメラの追加や録画期間の延長などによるシステム変更が容易かつ低コスト、スピーディーに行える
7. ハードディスク容量を気にする必要がなく、定期メンテナンスも不要

# クラウド監視カメラシステムのご紹介

---

## ・ASP型クラウド監視カメラシステム

設定が簡単/ソフトのインストール不要/管理画面にログインして操作/分かりやすいインターフェース

## ・オーダーメイドクラウド監視カメラシステム

ニーズに合わせて柔軟なシステム構築が可能/カメラやVMSは多様な種類から選択可能/多拠点に設置する場合にコストダウンが可能

## ・無線通信型クラウド監視システム

LTE(携帯)無線通信のため、LANケーブル不要/電源をつなぐだけで設定不要ですぐに使える

# ASP型クラウド監視カメラシステム

---

3台以内など小数の設置に最適。ネットワークやルーターの設定が不要なため、取付や設定をお客様自身で行うことも容易。通常の録画、ライブ映像の閲覧に加えて、YouTubeライブを利用した不特定多数へのライブ配信が可能。

## 推奨導入環境

小規模店舗、小規模オフィス、レンタルスペース、河川等(定点観測用)、レジャー施設、個人宅

メリットとデメリット: 固定IPやDDNSが不要のシステムのため、安定稼働が可能でシステム設定も容易。システム仕様がある程度制限されており、特定のカメラを選定する必要と録画期間は14日または30日のいずれかから選択する必要がある。

# オーダメイドクラウド監視カメラシステム

---

システム設計が柔軟に行えるため、お客様の環境・ニーズ・予算などに合わせた提案が可能。カメラやVMSは多くのメーカー・機種から選択でき、録画時間や録画方法も自由に設定できる。ある程度台数が多い場合にはASP型よりコストを下げることが可能。

ASP型クラウド監視カメラでカバー出来ない仕様の場合にはこちらのシステムで設計。

## 推奨導入環境

複数拠点の小規模店舗、中規模店舗、中規模オフィス、マンション

メリットとデメリット: カメラ機種やVMSは多くの種類から選択でき、録画期間も自由に設定可能なため、お客様の細かなニーズや環境に合わせた監視カメラシステムの構築が可能。クラウドサーバーとの接続設定等はやや複雑なため、当社の技術者の出張が必須となる。

# 無線型クラウド監視システム

---

設定不要で電源ケーブルをさすだけで利用を開始できるのが特徴。そのためLANケーブルの敷設工事が不要でさまざまな設置環境に対応しやすい。ポールなどへの取付器具もセットになっているため不慣れな方でも簡単に設置し、使用することができる。販売だけでなくレンタルでの提供も可能。

## 推奨導入環境

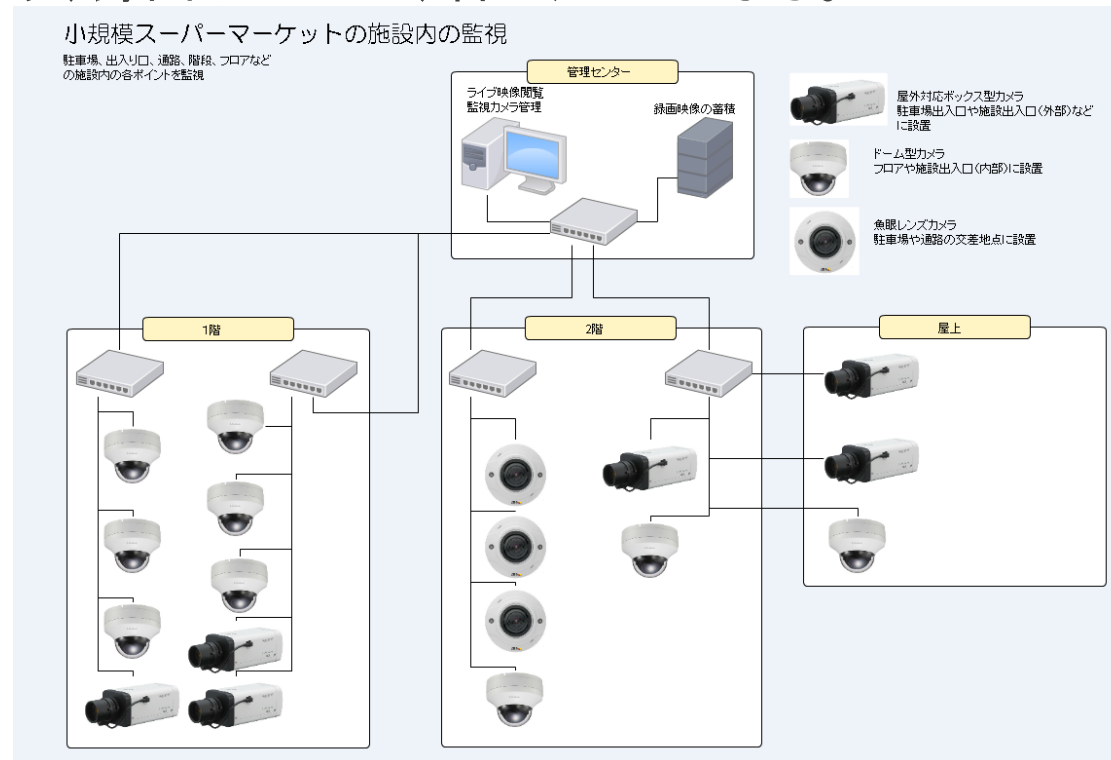
工事現場、短期イベント会場、屋外アミューズメント・スポーツ施設等

メリットとデメリット: LANケーブルが不要で電源ケーブルを接続するだけで稼働するため、幅広い環境で使用することが可能で、Youtubeによるライブ配信も可能。LTEでの無線通信のため、現場の回線状況に依存し、場所や時間帯等によってはコマ落ちなどが発生する可能性あり。

# オンプレミス監視カメラシステム

当社の監視カメラシステムではクラウド運用形式を推奨しているが一般的なローカル運用の案件にも対応。数百台規模のロジスティック事業所や大規模オフィスビルなどへの設置も行っている。その場合の一般的な構成は、ネットワークカメラ、録画サーバー、管理用PCとなる。

メリットとデメリット：従来からある一般的なシステムで、インターネット回線の状況などを気にする必要がなく、安定した運用が可能。多拠点を一括管理・運用したい場合などには不向き。





# 当社のご紹介

---

監視カメラについての技術・ノウハウだけでなく、ネットワークやクラウドツールについても経験と技術力があります。

監視カメラの目的、設置場所、機種選定、システム設計、コスト算出など何でもご相談ください。

コストをかければ性能の高いシステムを構築するのは簡単ですが、過剰なスペックは無駄なコストにつながります。防犯設備士、電気工事士やネットワークカメラの資格を持つ担当が、現地調査やお客様からのヒアリングを行い必要十分な構成で最適なお提案をさせていただきます。

対応可能な業務・サービス

監視カメラの設定、システム関連機器の設定、ネットワーク工事/設定、監視カメラシステムの設計、取付/設置工事、クラウドシステムの構築、監視カメラ機能のカスタマイズ

# お見積のご依頼、ご質問は

---

以下までご連絡ください。

株式会社コムワークス

担当: 土田、藤崎、加藤

Tel: 048-883-9629

メール: [ask@comworks.co.jp](mailto:ask@comworks.co.jp)

監視カメラシステムの情報を知りたい方、導入するか検討したい方、導入したいがどの程度費用がかかるか知りたい方、他社から見積をもらっているが比較検討したい方などお気軽にご連絡ください。